

未来の大人たちのために今、 私たちがができること

子どもの居場所、みんなでつくじませんか

「子どもの居場所づくり」とは、未来を託す子どもたち一人一人がかけがえのない存在であることを社会全体で確認し、子どものよさを認め、伸ばすように取り組む。そして、子どもの「心のよりどころ」をつくり、「人とのかわり」を目指すものです。



「子どもの居場所づくり」の「買」として進めている「地域子ども教室推進事業」は、学校や公民館などの社会教育施設を拠点として、地域の大人を指導員や安全管理員として配置し、小中学生を対象に放課後や週末に文化活動やスポーツ活動、自然体験などのさまざまな体験活動を行うものです。書道や英会話などの文化活動、バスケットボール、陸上競技などのスポーツ活動のほか、エイサーや三線などが各教室で実施され、子どもたちが生き生きと活動しています。

昨年度は、県内三十八市町村で計三百八教室が開かれ、延べ六十三万人の子どもと大人が参加しました。子どもたちからは、「たくさん友達ができたら」、「地域のひと仲良くなつた。」などの声も聞かれました。



た。「また、大人からも子どもが気軽に声をかけてくれるようになり、交流が増えた。」などの声がありました。本年度も、三十八市町村で昨年度を上回る三百以上の教室が開催されています。

子どもは、家庭での教育やしつけ、学校での教育や教師・友達とのふれあい、さらに地域の大人から学んで成長します。大人の皆さん、子どもたちが待っていますよ!!

泡瀬わらべ太鼓

【沖縄市泡瀬】
父母のボランティアが家で



最年少4歳の子供も練習に励みます

余っている食器セットなどを売って買った太鼓六台で練習を始めたのがきっかけで、活動を始めて今年で十年目になります。小学生を中心に部員二十人が、比嘉良博先生の指導の下、泡瀬小学校のクラブハウスで週三〜四回の練習を頑張っています。地域のお祭りのほか、沖縄マラソンでは沿道で太鼓を打ち、声を張り上げ応援しました。いろんな舞台で堂々と演舞をした後の満足感と達成感は子どもたちの自信につながっています。これからも暖かい応援をよろしく願います。

ていーだ教室

【うるま市高江洲小学校区】

ふるさとの古き良きおやつ作りサークル「ていーだ教室」では、月一回、PTAのお母さんや地域の方々の指導の下、メンバー十五人が「ポーポー作り」「だんご作り」などを楽しんでいます。

活動している子どもたちが「親」になった時、手作りのおやつを子どもに作ってあげられるようになつてほしいという思いで指導を行っています。

すみれ子ども会

【沖縄市池原】

毎週火曜日午後六時からすみれ保育園内で、知念正常先生によるボランテアの空手（剛柔流）指導が行われています。①礼儀作法を身につける、②沖縄の伝統文化の継承、③心・技・体バランスのとれた人間像の形成を目的としています。

現在、男女合わせて二十人近くの子どもたちが「エイ、ヤー」とかけ声勇ましく頑張っています。



2人組で型の練習をしている様子



う地域性もあり、外国人の子どもたちも多く含まれています。

技術の向上を図るとともに、地域行事への参加や活動後の公園周辺の清掃を行ってマナーを身につけることがこの教室での約束であり、目的です。

スケボーを通して次世代の人材育成を行うとともに、地域を愛する心を大切にしていきたいと考えています。

スケボー環境 デザイナーークラブ

【北谷町砂辺馬場公園】

沖縄ハンズオンNPOが主催する子ども教室の一つで、週三回行われるスケボー練習には、小学一年生から中学三年生までの子どもたちと高校生ボランテアを含む約二十名が参加しています。北谷町砂辺とい

読書の秋

地域で広げる読書活動の輪

子どもにとって読書活動は、言葉を学んだり、想像力を高めたりする上で欠くことのできないものです。近年、子どもの活字離れや読解力の低下が指摘されています。

そのような中、「地域」においては、自宅などを解放して本の読み聞かせや貸し出しを行うなど、子どもの読書活動を支えるためのさまざまな取り組みが行われています。

初めは一人でスタートした活動でも、その輪は確実に地域に広がっているようです。

松川でいご文庫(那覇市松川)

平成十七年度子どもの読書活動優秀実践団体(文部科学大臣表彰)

今こそ、0歳児からのブックスタートが行われています。宮田智子さん主宰の松川でいご文庫では、一九九〇年の文庫開設当初から幼児期の読書活動の重要性を認識し、0歳児の親子での読み聞かせを行っています。自宅を開放しての文庫活動は、現在、月曜日と土曜日の週二回行われています。今では、地域のお母さんや大学生になった文庫の卒業生が読み聞かせを行うなど、地域にしっかりと根づいた活動になっていきます。

